

# 化石研 ニュース

135 2019/7/6

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

## 第37回化石研究会 総会・学術大会 (於 埼玉県立自然の博物館) プログラム

第37回化石研究会総会・学術大会(通算151回)のプログラムをお知らせいたします。  
本大会は、会場である埼玉県立自然の博物館と共催で開催いたします。

皆様の参加をお待ちしています。

- 日 時：2019年7月20日(土) 13時～21日(日) 15時(予定)
- 会 場：埼玉県立自然の博物館(埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1)  
※ 秩父鉄道・上長瀬駅から徒歩で約5分
- 日 程：

### < 一日目 7月20日(土) 13:00～16:50 >

- ・シンポジウム(一般公開/詳細は2～3ページをご覧ください)

「化石研究の成果と多様に活かす～妖怪から天然記念物まで～」

- ・懇親会 7月12日(金)まで参加申込みを受付けます。  
小幡会員 obt\_kk@kss.biglobe.ne.jp 宛てに申し込んでください。

### < 二日目 7月21日(日) 8:15～15:00(予定) >

- ・バス巡検 8:15～10:15
- ・一般講演(口頭発表/一般公開) 10:30～12:10
- ・総会(会員のみ) 13:10～14:00
- ・一般講演(ポスター発表/一般公開) 14:00～15:00

※ 個人講演の演題は4ページをご覧ください。

< 一日目 7月20日 (土) >

## シンポジウム 「化石研究の成果を多様に活かす ～妖怪から天然記念物まで～」

### 《開催趣旨》

“モノ”を扱う化石研究の分野は、比較的分かりやすく、一般に普及しやすい性質がある。研究活動を行える環境を整えるためにも、当該領域における一般の理解は必要不可欠であり、興味関心がある層—すそ野—を地道に広げることが、最終的には活発な研究活動につながってくる。本シンポジウムでは、今までの調査・研究の蓄積を様々なアプローチからすそ野を広げようとしている活動を紹介し、より多くの人に化石研究に興味を持ってもらうためにはどうしたらよいか。研究の主役である“モノ”の魅力を伝え、同時に守り伝えていくためには、どのような手段があるか、検討したい。

### 《演題と演者の紹介》

#### 趣旨説明 北川博道（埼玉県立自然の博物館）

“標本”を扱う化石研究の分野は、比較的分かりやすく、一般に普及しやすい性質がある。研究活動を行える環境を整えるためにも、当該領域における一般の理解は必要不可欠であり、興味関心がある層—すそ野—を地道に広げることが、最終的には活発な研究活動につながってくる。本シンポジウムでは、今までの調査・研究の蓄積を様々なアプローチからすそ野を広げようとしている活動を紹介し、より多くの人に化石研究に興味を持ってもらうためにはどうしたらよいか。研究の主役である“標本”の魅力を伝え、同時に守り伝えていくためには、どのような手段があるか、検討したい。

#### 講演1 荻野慎譜（福井県勝山市観光戦略アドバイザー）

##### 「古生物からはじまる多様性」

日本国内の古い文献には、ときおり不思議な生き物が記録されている。それらは大蛇骨、天狗骨、竜骨など架空の動物として現代に伝わっているが、当時実際に観察してわからないながらもしっかり記載されたと考えられる描写も少なくない。このような記録の中に脊椎動物化石の痕跡が見つかる。郷土誌などで知られた話に異分野の目を向け再検討することで、これまで知られていなかった明治以前の化石記録の実体を探る。

## 講演 2 近藤洋一（野尻湖ナウマンゾウ博物館）

### 「野尻湖発掘の成果を地域に活かす取り組み

#### ー地域と協働する博物館をめざしてー

1962年にまず掘ってみようという提案ではじまった野尻湖発掘も、2020年で58年をむかえる。野尻湖ナウマンゾウ博物館では、従来の野尻湖発掘の成果はもちろんのこと、新しい発掘の成果もそのつど情報発信しており、「氷河時代の自然環境と人類」をテーマとした、地域活性化の拠点作りをすすめている。最近では、氷河時代案内人制度を設けて、地元のみなさんが主体的に野尻湖発掘の成果を普及する活動を始めている。野尻湖発掘の歴史と成果をふりかえり、地域と協働する博物館づくりについて検討したい。

## 講演 3 安藤佑介（瑞浪市化石博物館）

### 「化石も文化財。その保護と活用事例

#### ～瑞浪北中学校工事現場に露出した瑞浪層群明世層産化石群～

2016年6月から約1年間、岐阜県瑞浪市土岐町において瑞浪北中学校を建設するための敷地造成工事が実施され、その際工事現場内に瑞浪層群明世層（前期中新世：18 Ma）が露出し、岩礁性二枚貝エゾイガイの密集化石をはじめ多くの発見があった。このような大規模公共工事の際に、工事と並行して化石の調査を行うことが可能であったのは、工事現場が市指定の天然記念物「瑞浪化石産地」の範囲内にあることによる。本発表では、天然記念物に指定された化石がこれまでに担ってきた効果、工事現場での調査とその結果の公表、産出化石の活用についてまとめ、紹介する。

## 講演 4 北川博道（埼玉県立自然の博物館）

### 「国指定天然記念物になった世界一のパレオパラドキシアコレクション」

天然記念物については、研究者は一種のアレルギーのような物を持っているように思える。しかし、標本を守る手段として現法制上唯一の手段が、文化財保護法に基づく天然記念物指定であると考えられる。2016年に埼玉県立自然の博物館が所蔵するパレオパラドキシア化石6点、ならびにクジラ化石3点の合計9点が秩父地域の6ヶ所にまたがる露頭と共に国天然記念物に指定された。化石標本の指定は「エゾミカサリュウ」（1977年）以来39年ぶりで、現在までに4件しかない。記念物等をいかに我々研究者（ユーザー）が使いやすくなるような取り扱いをしていくか、そしてそれを次の研究にいかにつなげていくか、パレオパラドキシア化石の研究結果と共に紹介する。

## 総合討論 司会 徳川広和（株式会社ACTOW）

## < 二日目 7月21日 (日) >

### ・一般講演 (口頭発表／一般公開) 10:30～12:10

- 1 秩父盆地中新統・子ノ神層の基底にみられる *Gastrochaenolites* 群集から読み解く古環境  
— 郷平橋下流・右岸露頭を中心にして—  
千代田厚史 (東松山市化石と自然の体験館)
- 2 秩父盆地南縁部の中新統平仁田層産化石群集とその堆積環境  
小幡喜一 (小鹿野高校)・堀口繁昌 (埼玉県立自然の博物館ボランティア)
- 3 歯や顎骨の化石試料における X 線マイクロ CT によるイメージング技術の有効性  
三島弘幸 (鶴見大学 歯 歯科理工)・千葉敏江 (鶴見大学 歯 口腔解剖)・  
見明康雄 (鶴見大学 歯 口腔解剖)・谷本正浩 (大阪市立自然史博物館)・  
笥 光夫 (元明海大)
- 4 長鼻類の歯冠セメント質—エナメルセメント境の形態—  
鈴木久仁博 (日本大学松戸歯学部)・平山達也 (日本大学松戸歯学部)・  
国府田良樹 (神栖市歴史民俗資料館)
- 5 イルカの歯周構造とその機能的意義の検討  
小寺 稜 (鶴見大学歯学部解剖)・井上孝二 (鶴見大学歯学部電顕室)・  
植草康浩 (医療法人千秋双葉会)・小寺春人

### < 昼食休憩 12:10～13:10 >

### ・ 総会 ・ ・ 13:10～14:00 会員の皆様はご出席下さい。

### ・一般講演 (ポスター発表／一般公開) 14:00～15:00

- 6 埼玉県秩父盆地の中新統から産出したゴカクウミユリ化石  
堀口繁昌 (埼玉県立自然の博物館ボランティア)・小幡喜一 (小鹿野高校)
- 7 埼玉県秩父盆地の新第三系平仁田層から産出したクモヒトデ化石  
石田吉明・堀口繁昌 (埼玉県立自然の博物館ボランティア)  
・小幡喜一 (小鹿野高校)
- 8 歯のエナメロイドとは何か  
笹川一郎 (日本歯科大学新潟生命歯学部先端研究センター)

## 運営委員会の開催について

役員の方はご出席ください。

日 時：7月20日 (土) 11:00～12:30

※ 会場等詳細につきましては、別途メール等で連絡いたします。



## ＜その他の宿泊施設＞

梁山泊（前号4ページ参照）は7月12日（金）まで、若干名の宿泊を受付けます。

小幡会員 obt\_kk@kss.biglobe.ne.jp 宛てに申し込んでください。

それ以外の、博物館周辺の宿泊施設については、長瀬町観光協会や秩父観光協会のWebpageの「宿泊施設（下記アドレス）」をご覧ください。

長瀬町観光協会 <https://www.nagatoro.gr.jp/bunrui/stay/>

秩父観光協会 <http://www.chichibuji.gr.jp/hotel/>

## ＜7/20・21の昼食について＞

上長瀬駅のそばなどに食堂があります。

# 第152回化石研究会例会のおしらせ

**開催日：2019（令和1）年11月2日 午後**

**会 場：兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市）**

## 内 容：「パレオアートと博物館」

アーティストと研究者の緊密な共同作業により作成された復元画、復元彫塑像、復元骨格を総称してパレオアートというが、パレオアートは古生物や古環境の研究結果を一般市民に伝える強力なツールである。一方、博物館は重要な化石産出層の発掘調査を推進する担い手であり、その調査研究結果を市民に伝えるうえでパレオアーティストとの共同作業は欠かせない。

本シンポジウムでは解剖学的な知見に忠実に作品を作成しているパレオアーティスト、デジタル技術を積極的に活用しているパレオアーティスト、絶滅動物の体色復元に携わった生物学者、復元景観図で重要な古植物を研究している古生物学者から話題を提供していただき、パレオアートの進むべき方向、さらには博物館における重要性について考える。

## 演者と演題（予定）：

小田 隆「パレオアート：絵画」

徳川広和「パレオアート：塑像」

栗山武夫「絶滅動物の体色復元」

山田敏弘「中生代の植物の復元－恐竜のいた風景」

新村龍也「博物館におけるデジタル技術を活用したパレオアートの展開」

詳細については当会ウェブページ、化石研ニュース次号でお知らせします。  
万障お繰り合わせの上、ご参加下さい。

## >>> 最近出版された書籍の紹介 <<<

### 1) 漫画 むかわ竜発掘記：恐竜研究の最前線と未来がわかる

土屋 健 [企画・原案] 小林快次 [監修] サイドランチ [マンガ]

発行 誠文堂新光社 / 2019年 / 価格 ¥1300+税

### 2) きょうりゅうのサン いまぼくはここにいる線と未来がわかる

つちやまり [文] 星野イクミ [絵] 小林快次 [監修]

発行 アリス館 / 2019年 / 価格 ¥1300+税

※ 2冊とも、北海道むかわ町で発掘された「むかわ竜」をテーマにした本です。1)は同じ誠文堂新光社発行の「ザ・パーフェクト」を元にコミック化したものです。当会会員である櫻井和彦館長も登場します。

2)は「むかわ竜」を題材にした絵本で、解説ページもついています。

### 3) 恐竜・古生物ビフォーアフター

土屋 健 [著] ツク之助 [イラスト] 群馬県立自然史博物館 [監修]

発行 イースト・プレス / 2019年 / 価格 ¥1600+税

※ かつての恐竜像と現在の恐竜像の違いについて、わかりやすく解説しています。

### 4) 新説 恐竜学

平山 廉 [著]

発行 カンゼン / 2019年 / 価格 ¥1600+税

※ 平山廉会員の新著。最新の恐竜像について解説しています。

### 5) ゆるゆる恐竜図鑑

加藤太一 [監修] かげ [まんが]

発行 学研プラス / 2019年 / 価格 ¥980+税

※ 加藤太一会員が監修した書籍。恐竜像についてゆる〜い4コママンガで解説しています。

### 6) 恐竜の教科書：最新研究で読み解く進化の謎

ダレン・ナイシュ、ポール・バレット [著]

小林快次・久保田克博・千葉謙太郎・田中康平 [監訳]

発行 創元社 / 2019年 / 価格 ¥4500+税

※ 著者のナイシュはイギリスの古脊椎動物学者で、恐竜に関する著書もかなりあります。やや高めですが、カラーの図が多いです。

(事務局 高桑)

## >>> 事務局だより <<<

- 発行が遅くなってしまい、申し訳ございませんでした。
- 会誌やニュースの送付先（ご自宅、勤務先）が変更となった際には、事務局までご一報ください。

- 「2019年度会費」の納入をお願いします。年会費は以下のとおりです。

年会費 4000円（学生2000円）

振替口座 00100-7-633288 化石研究会

※1 納入状況は、発送封筒の宛名ラベルでご確認ください。

※2 2018年以前の会費が未納となっている方は、あわせて納入してください。

3年間、会費未納の会員は除籍となります。

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

TEL：0274-60-1200 / FAX：0274-60-1250 / E-mail：BXJ04105@nifty.ne.jp

ウェブページ <http://kasekiken.jp/>

郵便振替口座 記号番号 00100-7-633288

名称 化石研究会（カセキケンキュウカイ）

年会費 一般4000円（学生2000円）

この化石研ニュースは、上記の化石研究会のウェブページでも見ることができます。現在、紙でニュースが郵送されている方の中で、紙で送らなくても良い方は是非ご連絡ください。費用と労力の削減に御協力ください。